

九州ネット

5月12日
第8号

九州体育・保健体育ネットワーク研究会



鹿児島県開催 <黒豚ラウンド>

H24.5.12 (Sat)

鹿児島大学

爽やかな五月晴れのもと、この日はおとなしかった!? 桜島の見守る中、県外から13名、県内から32名、計45名の方々の参加をいただき、今年度第1回目の九州体育・保健体育ネットワーク研究会<黒豚ラウンド>を開催しました。去年の2倍以上の参加者数と体育について熱く語り合える仲間との新たな出会いに、感謝・感動の日でした。情報交換会へも多数ご参加いただいて、鹿児島での熱く長い夜は焼酎と充実感でいっぱいになりました。

1 トピックス：鹿屋ラウンドシンポジウムを振り返る



3月10日鹿屋ファイナルラウンドで行われた「保健体育授業づくりシンポジウム」の立派な冊子(カラーで32ページ)が参加者全員に配布され、シンポジウムを振り返りながら、鹿屋体育大学 佐藤 豊教授からこの研究会の目的や取組、今後の方向性などについて示されました。

九州から全国へ、そして世界へ発信するという佐藤代表の壮大な構想が語られ、これからの「体育科教育」にかける佐藤教授の熱い思いと学習指導要領改訂を第一線で行った責任者としての使命感を改めて感じました。

2 情報提供：「大学における体育科教育について」

今回の会場を提供いただきました鹿児島大学 廣瀬勝弘准教授から、「ボールゲーム学習の課題とラグビーの指導内容」について、研究レベルでの情報提供をいただきました。「ゲームの活動部分(アクティビティ)」⇒<目に見える>と、そのアクティビティが含みこんでいる「学習内容(コンテンツ)」⇒<目に見えない>との関係を明らかにすることによって、「～型ゲーム」によって行われるボールゲーム学習に示唆をいただき、もっとその先まで聞いてみたいと思われるような興味深い内容でした。

3 実践報告1・2：「鹿児島県内研究校の実践報告」

昨年度、鹿児島県内で研究発表を行った2つの小学校による実践報告をいただきました。どちらも「器械運動」の授業における実践例でしたが、意見交換の中で、「たくさん技がある器械運動の指導内容は何か」という質問に、佐藤先生から「学習指導要領の本体は全ての子どものために保証する。解説は参考。器械運動の個別の技が内容ではなく、技に共通する動きが指導内容。」との解説をいただきました。また、先ほどの廣瀬先生による型で示されたボールゲーム学習における指導内容と器械運動の指導内容の構造が同じであることにも気付かされ、本ラウンドのつながりを感じることでした。

実践報告1：南さつま市立大浦小学校 西浩司先生

実践報告2：鹿児島市立名山小学校 東山崎洋一先生



4 実践報告3：「特別支援学校の授業の実践」



九州ネットワーク研究会始まって以来、初めての特別支援学校における実践報告を、本研究会の焼酎大臣(去年は「焼酎部長」でしたが、昇格?)が報告いたしました。

特別支援学校でのPDCAサイクルで行われている個別の教育支援計画や個別の評価についての紹介をいただき、小・中・高すべての校種において、個に応じた指導の大切さを再認識することとなりました。

実践報告3：鹿児島盲学校 岡山啓先生

(報告：岩下)

次回、長崎ちゃんぽんラウンド! 8月4日(SAT)

その前に…6月9日山形サクランボラウンド(東北・北海道ネットワーク)開催協賛!